

第 5 回 計画検討委員会（H28.8.2）の主な意見とその対応について

1 寄せられた意見への対応について

主な指摘・意見	回答・対策方針など
<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後の高齢化社会を考慮し、年齢別の分析を詳細に行う必要があるのではないか。また、20代以下でも免許を保有していない10代は異なる傾向があるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年齢層を10代、20～50代、60代以上と細分化し傾向を確認できるようにした。（資料4参照）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 県民の意見として結果を示すには、沖縄県全体の年齢構成や地域別の人口と比較したうえでアンケートの年齢構成・地域にどのような特性があるかを整理する必要があるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 沖縄県全体の年齢構成や地域別の人口構成を併記し、アンケートの構成との相違を確認できるようにした。（資料3参照）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 人口密度等を考慮して派生案を示しているが、駅が決まっていない中で派生案を分けることにどこまで意味があるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 需要予測を行うにあたり、大まかなルート・主要駅を設定する必要があり、従来案と派生案では結果が異なってくるので追加設定した。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 寄せられた意見への対応に、技術検討委員会の対応が漏れている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 技術検討委員会の対応が分かるように、資料を修正した。（資料4参照）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 骨格軸を決めたあとで、どのようなシステムにするかを決めるとのことであるが、並行して検討する必要があるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在行っている構想段階は、概ねのルート等の検討を行っている段階であり、構想段階終了後の計画段階において、システムも考慮の上、ルート等の詳細な検討がなされるものと考えている。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 既存案と派生案の違いがわかりにくいので、わかりやすく示す必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既存案と派生案の違いが分かるように、資料を修正した。（参考資料3参照）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 県民からは、想定するシステムで鉄軌道よりモノレールやLRTの意見が多い印象を受ける。以前から、鉄軌道を求める話があった中で、思いのほか意見が少ないと感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ システムに関する意見では、鉄道を求める意見は少ないが、基幹軸の整備に関する意見では、鉄道を含む鉄軌道の早期導入を求める多くの意見があることにも留意する必要があると考えている。

主な指摘・意見	回答・対策方針など
<ul style="list-style-type: none"> 名護までつなぐ必要性と、中南部都市圏におけるあり方について整理が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 計画案づくりにおいては、沖縄21世紀ビジョン実現の観点から、県土の均衡ある発展、移動利便性の向上、交通渋滞の緩和などを目的に、交通政策のみならず、沖縄振興の観点からも検討を進めることが重要と考えている。

2 鉄軌道導入の効果・影響について

主な指摘・意見	回答・対策方針など
<ul style="list-style-type: none"> 交通の将来像としては総合交通体系に示されているものと考えているが、交通環境が大きく変化（例えば、電気自動車と環境の関係、自動運転と事故の関係、超小型モビリティと高齢者の関係、車両の進化など）していることを考えたうえで、鉄道の位置づけを明確にする必要がある。 鉄道ができるとどんどん便利になるイメージを持つが、他地域ではどの程度の需要に対してどの程度の運行本数なのかオーダー感を持ってもらう必要がある。また、廃止した路線はどの程度の利用者数だったのかについて事例で整理する必要がある。 無理に作って維持できず失敗となることが問題なので、そういうことを理解してもらうために資料を作る必要がある。 計画を作る段階においても、鉄軌道をどのように支えていくか、事業者だけでなく県民の立場でもどのように関わっていくか考える必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 県民に鉄軌道に関する効果・影響をきちんと理解してもらうことが重要と考えており、他事例をもとに資料を整理のうえ、情報提供していく。

3 ステップ4の検討の進め方について

主な指摘・意見	回答・対策方針など
<ul style="list-style-type: none">・ 計画案、概略計画という表現があるが、現在議論していることは構想段階の計画であり、構想段階の計画ですべてが決まるのではないことを明確する必要がある。	<ul style="list-style-type: none">・ 構想段階としての計画案の立ち位置が明確になるように、表現を修正した。(資料8参照)
<ul style="list-style-type: none">・ まちづくり計画の検討では、市町村に関わりを促すイメージか。フィードバックもあるのか。	<ul style="list-style-type: none">・ 他県の事例を示しながら、沿線市町村の役割を示していきたいと考えており、市町村会議の場を活用しながら、情報を提供・共有しながら進めていきたいと考えている。